

地域医療構想を踏まえた「公的医療機関等2025プラン」「新公立病院改革プラン」対象病院

		病院名	対象理由	所在区市
北多摩北部	1	公立昭和病院	公立病院（地域医療支援病院）	小平市
	2	多摩北部医療センター	地域医療支援病院	東村山市
	3	東京病院	地域医療支援病院・国立病院機構	清瀬市

医療機関名 公立昭和病院

北多摩北部 キーワード： ○ 役割分担 ○ ツールの共通化・ICT ○ 顔の見える関係づくり

(キーワード1： 役割分担)

基本的には、北多摩北部地域を中心としたこの圏域で、高度・急性期医療センターとしての役割を担っていきたいと考えている。

5 疾病 5 事業などの政策医療においては、特に、がん専門医療の提供、脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病、救急医療について地域の中核的な役割を果たしている。今後も各機能の維持及び強化に努めるとともに、精神疾患、認知症などの高齢者医療、在宅医療、介護にも関わり、社会ニーズに沿った体制を整備し、地域の医療機関のほか関係機関との連携を推進していく。

(キーワード2： ツールの共通化・ICT)

当院では、地域医療連携ネットワークシステムを構築し、現在、地元医師会の先生方と試行をしている。まだ、第一歩というところであるが、将来的には、この圏域の他の病院と、或いは、医療機関のほか、介護に関わる方々とも情報共有を進めていきたいと考えている。

(キーワード3： 顔の見える関係づくり)

北多摩北部病病連携会議の事務局として定期的に会議を開催させていただいている。会には、テーマ別の部会があり、最近では、新たに薬剤耐性菌に関する部会や栄養に関する部会が発足するなど、病院職員同士の具体的な活動に発展してきている。

こうした「顔の見える関係づくり」については、今後も地域の中核病院として、中心的な役割を果たしていく必要があると考えている。

1 「地域」としてどの範囲を意識していますか。また、その範囲が構想区域外に及ぶ場合、関係機関等と連携するための取組を何か行っていますか。

当企業団を構成する 7 市のうち 2 市の所在する北多摩南部、北多摩西部を意識している。

北多摩北部病病連携会議のほか、構成 7 市医師会公立昭和病院連絡協議会を年 2 回開催し、高度医療機器の共同利用や共同診療などについて協議している。7 市の医師会の先生のほか、東京都医師会や北多摩医師会からも参加していただいている。

また、転院先の病院や施設の職員を当院に招き、連携に関する諸問題について、関係する職員同士で協議をしていただく「アライアンスの会」を開催しているが、この会には、圏域外の病院や施設にも声掛けをして参加をしていただいている。

2 近隣の関係機関と遠方の関係機関、それぞれにおける連携方法等の違いについて記入してください。

(上記 1 に記載の他は特になし)

3 地域包括ケア病棟を有している、又は、有する予定の場合、ポストアキュートとして使っているか、サブアキュートとして使っているか、更に今後どのように試用していく予定かについても記入してください。

(地域包括ケア病棟を有する予定なし)

4 病床機能を分類するに当たっての根拠や理由について記入してください。

北多摩北部地域（JR中央線の北側）においては、三次救急、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、周産期母子医療センターなどに指定されている500床以上の高度・急性期の病院は、当院のみであり、高度・急性期医療を行うことが当院のミッションであると考えている。

なお、全病床518床のうちICUなどの特定入院料の病床が100床あり、それ以外の病床は、一般の入院基本料の病床で、従来のいわゆる7対1看護、現行の急性期一般入院料1を届け出ている。この一般の病棟の重症度、医療・看護必要度は、30%以上が要件のところ、実績は38%となっており、実際に重症度の高い患者が多く入院している状況にある。

5 自院の持つ機能を活かすために、他の医療機関に求めることについて記入してください。

地域の他の医療機関と協力して、できるだけ地域の中で医療が完結するように、基本的に当院は、北多摩北部地域を中心としたこの圏域で、高度・急性期医療センターとしての役割を担っていきたいと考えている。

地域の医療機関のほか関係する機関と切れ目のない連携を推進していくためにも、紹介・逆紹介を互いに一層進めていくとともに、是非、クリニックの先生方を始め、多くの医療機関に地域医療連携ネットワークシステムへ参加いただけるようお願いしたい。

地域医療構想調整会議 事前提出資料

医療機関名 公益財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター

(キーワード1:役割分担)

地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築が進められる中、当院の役割は地域の急性期医療を担う中核病院として、病病・病診のみならず介護(保健・福祉)の連携も強化していく。その中で、在宅医療支援、小児救急、救急医療全般、がん医療のさらなる強化などを中心に、地域医療のニーズを的確に捉え、地域に必要とされる病院としての立ち位置をさらに明確化していく。

(キーワード2:ツールの共通化・ICT)

昨今の医療では、病院内外問わずICT(情報処理通信技術)化が必須となってきている。しかし、医療圏全域でのICTを活用した診療連携を行うにはまだまだ課題も多く、医療機関ごとの取り決めや、患者情報の漏洩対策、構築資金の確保などを始め、進めるにあたっては様々に検討を行っていく必要がある。

(キーワード3:顔の見える関係づくり)

患者を紹介していただくうえで、「名前しか知らない」関係にならないように、近隣医療機関へ事務職員と医師、MSW等が同行訪問することで信頼関係を構築している。また、各種研修会等を定期的に開催し、日常から連携を図っている。

1 「地域」としてどの範囲を意識していますか。また、その範囲が構想区以外に及ぶ場合、関係機関等と連携するための取組をなにか行っていますか。

北多摩北部医療圏の5市以外に埼玉県近隣市(新座市、所沢市等)と認識している。連携するための取組としては、直接訪問し当院の役割や連携医登録のご案内を行っている。また、症例検討会の開催、広報誌の発行を行っている。

2 近隣の関係機関と遠方の関係機関、それぞれにおける連携方法等の違いについて記入してください。特に、遠近に関わらず、訪問先の医療機関に応じて当院の役割について十分な説明に努め連携を図る。

3 地域包括ケア病棟を有している、または有する予定の場合、ポストアキュートとして使っているか、サブアキュートとして使っているか、更に今後どのように使用していく予定かについても記入してください。

該当なし

4 病床機能を分類するに当たっての根拠や理由について記入してください。

当院は基本的に急性期医療を担う中核病院として、院全体を急性期で届け出ており、その中で、さらなる高度な医療が求められるユニット系病床を高度急性期として出している。また、北多摩北部医療圏内で当院が最も力を入れている医療の一つである血液癌治療を進めていくにあたり、医療圏の中心的存在となるべく、血液内科病棟も高度急性期病棟として届け出ている。

5 自院の持つ機能を活かすために、他の医療機関に求めることについて記入してください。

当院の大きな課題として、地域の中核病院としての役割を果たすべく、医療連携をさらに強化し推進していく必要がある。そのために、病院・診療所ともに、当院とのつながりを強くし、情報の共有を図るための良い関係性を築いていけるよう、お互いに協力していきたい。

医療機関名 東京病院

(役割分担)

当院の役割分担として、地域医療支援病院、二次救急医療機関、がん診療連携協力病院（肺がん）等の指定を受けていることから、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器疾患等の手術や重篤な呼吸不全、結核に対する専門的治療を担っている。

(ツールの共通化・ICT)

複数の医療機関の患者診療情報を安全に連携させ、地域医療のサービス拡充をサポートする地域医療ネットワークを東京都、医師会等が中心となり構築していただければ、是非協力させてほしい。

(顔の見える関係づくり)

当院が開催する東京病院医療連携推進委員会等で当院の医療機能や医療提供体制の現状について情報提供をしている。同時に開催される連携交流会では構想区域内外の関係機関の担当者と当院の医師、看護師、コメディカル、事務職が様々な情報交換や意見交換を行っている。また、地域医療連携室を中心に地域の医療機関等を積極的に訪問し当院との協力体制を構築している。

- 1 「地域」としてどの範囲を意識していますか。また、その範囲が構想区域外に及ぶ場合、関係機関等と連携するための取組みを何か行っていますか。

当院の医療提供上の地域とは、大局的に考えれば東京全域及び埼玉県、神奈川県など隣接県にまで及ぶものと考えている。その理由としては、当院は結核を含む呼吸器分野の疾患に関する治療成績や臨床研究については当該地域でもトップレベルの域に達していることである。ただし、地域医療支援病院や二次救急医療機関としての役割を踏まえれば、当院が所在する清瀬市を含む北多摩北部医療圏が医療提供上の地域の範囲の中心であり、更には練馬区や隣接する埼玉県の所沢市や新座市などまで地域の範囲が及ぶものと考えている。

構想区域外の医療機関との連携については、当院が設置する地域医療連携室が中心となって、患者の紹介、逆紹介を推進するとともに、双方のスタッフ間で患者がより良い医療環境のもとで治療が受けられ、早期に在宅復帰が可能となるよう情報交換等を行って、そのことにより地域包括ケアの一端を担っているものである。

また、当院では年2回東京病院医療連携推進委員会を開催し、その委員として構想区域外の医師会長も多く参画し、当院における医療機能や医療提供体制の現状について情報提供を行っている。そのことによって、参加した医師会長を通して管下の医療機関に当院の現状がリアルタイムで伝えられていると思われる。同時に地域医療連携交流会も開催され、構想区域外の関係機関の担当者が毎回数多く参加しており、その場において当院の医師、看護師、コメディカル、事務職が様々な情報交換や意見交換を行っている。他にも、病院長が東京都病院協会など職域団体の会員となり、関係機関の理事長、病院長などの立場にある者と病病連携や病診連携の在り方について積極的に話し合っている。こうした取り組みにより構想区域外の医療機関とも連携を強化しているところである。

- 2 近隣の関係機関と遠方の関係機関、それぞれにおける連携方法等の違いについて記入して下さい。

近隣、遠方に特に違いはない。連携方法としては「設問1」で述べたように、地域医療連携交流会での意見交換、冊子等の送付、メールや手紙、ホームページでの情報発信により連携を深めている。また、必要に応じて直接訪問させていただいている。

- 3 地域包括ケア病棟を有している、又は有する予定の場合、ポストアキュートとして使っているか、サブアキュートとして使っているか、更に今後どのように使用していく予定かについても記入してください。

(地域包括ケア病棟がない、又は有する予定がない場合は記入不要です。)

- 4 病床機能を分類するに当たっての根拠や理由について記入して下さい。

【高度急性期4床】

特定集中治療室管理料を算定している。

【急性期298床】

北多摩北部医療圏内での役割分担として、二次救急医療機関の指定を受け、肺がんや肝がん、重篤な呼吸不全に対する専門的治療を行っている。

また、呼吸器疾患、消化器疾患等に対して数多くの手術を行っている。

【慢性期60床】（緩和ケア病棟20床・障害者病棟40床）

病状が比較的安定し、再発の予防や体力維持を目指して患者さんに向き合いながら治療を行っている。

緩和ケア病棟は30床に増床するため新棟を建設し、平成32年4月に供用開始予定である。

【回復期50床】

脳血管障害・整形外科疾患・廃用症候群等、急性期を脱した患者さんに対して、医師による障害診断と機能予後予測に基づき回復期リハビリテーションを行っている。

また再発予防のための薬物療法、食事療法も行って回復に向けた治療を行っている。

5 自院の持つ機能を活かすため、他の医療機関に求めることについて記入してください。

当院は地域医療支援病院、二次救急医療機関、地域災害拠点病院、エイズ拠点病院や各種協力病院（がん診療連携、難病医療）など医療機能上の役割を担っており、また、21の標榜診療科で、急性期医療から慢性期医療までの幅広い診療機能を保持していることから、他の医療機関についてはこれら状況を判断いただき、当院に対し必要な要請や要望をお願いしたい。そのことによって地域での医療環境や患者の療養環境の向上につながるよう施策を検討する一助としたい。

また、当院は内科専門研修プログラムの基幹施設に認定されており、当院で受入れた内科専門研修医の他医療機関での研修受入れをお願いしたい。（当院で研修出来ない診療科）

結核について、当院においても近年患者数が逡減傾向にあり、当該医療圏で共に結核医療の中心を担っている複十字病院と東京都を交えて結核医療の在り方について真剣に議論したいと考えている。